

日比のジェンダー問題



活動の目的

- 1 | DAWNと連携して、日本とフィリピンのジェンダー問題について考える
- 2 | DAWNが主催する劇団「あけぼの」ツアーを日本で支援する

連携にいたる経緯

久保田は、1992年にフィリピンで主催した国際シンポジウムでDAWNの代表Nuqui氏と初めて会い、2015年に再会した。以後、ゼミ生を中心にさまざまな形態でフィリピンと日本で連携して活動している。

活動内容

DAWNとは、フィリピン人移民女性と日比国際児を支援するフィリピンのNGO団体である。2017年度は、まず、DAWNに所属する子どもたちが日本に来た時に、子どもたちによる劇の開催を支援した。具体的には、日比国際児の問題を当事者が演じている「クレーンドッグ」という劇を梅田キャンパスのホールで開催。その趣旨を参加者と共に学んだ。次に、TUP（フィリピン工科大学）で学生とDAWNとゼミ生で日本とフィリピンのジェンダー問題について学び、グループディスカッションを行った。ここでは、DAWNの女性たちが、国際結婚の問題についての劇を披露。次に、劇の内容を踏まえてTUPの学生と一緒に「国際結婚では何が一番問題になるか」についてシンキングツールを使ってグループディスカッションを行った。その結果、国際結婚の問題の理由についてお金や文化、教育などの違いがあげられ、その根拠を提示しながらそれぞれの意見を出し合い話し合った。最後に、各グループ話し合ったことを発表して情報共有をした。おおよそ100名の学生や教員が参加した。

活動の成果

- 1 | TUPの学生にも国際結婚の問題について考えてもらう機会になった
- 2 | ゼミ生が、企画、準備、実施を担当したので、コミュニケーション能力等が身についた

今後の課題・目標

- 1 | DAWNと連携して、フィリピン人移民女性や日比国際児の問題について勉強する
- 2 | 日本でも国際結婚をした場合、どんな問題が起こるのか考える場を設ける

DATA

●主な連携先・メンバー

〈連携先〉DAWN (Development Action for Women Network)
 〈メンバー〉久保田真弓/
 (2017年度) 真弓ゼミ16期生
 12人/真弓ゼミ15期生 3人/
 大学院生 1人

●活動地域

フィリピン【マニラ】
 ・TUP(フィリピン工科大学)
 ・DAWN
 日本【大阪】

●活動資金

なし



●教員紹介



総合情報学部 教授 久保田 真弓(くぼた まゆみ)

フィリピンで「ジェンダーと開発」の視点で調査したのがきっかけでJICAのジェンダー主流化の研修に長年かかわっている。これらが土台となり、DAWNと連携を始めた。日本とフィリピンの関係について学生に少しでも多角的な視点で見ることができるようになればよいと思っている。